

『朝 (03/06)』

庭に陽が差込んでいる
日曜日と言う一日は
物静かな幕開からはじまる

車の音も人の息ずかいもなく
木漏れ日洩れる庭の佇まいを
お茶を飲みながら眺めていられる

束の間の愛からも開放され
与えてくれた休息に
私は今感謝している

庭の佇まいを乱す行為と言えば、まだ冬の風が
木立を嘗め回して去って行くだけかである。
ゆっさゆっさと杉の大樹が枝葉が首を振る。
何へ振っている？ 冬の風へ？ 春まじかの陽にか
カッサ・カッサと落葉が運ばれていく
底冷えの寒さを見せた冬將軍も引き上げていく
凡てが陽をむさばり食へ春を待っている。

『朝 (03/06)』

今日の曇りは春まじかの
曇なんでしょうか
冷たい風の中で

木々は芽を微かに緑たて
そこはかと
土は柔らかく
濡れているようです

夕陽を浴びて
木立ちも家々の瓦も
いやもっともっと
景色が織りなす気配が
湿って温かく
生きを育んでいるのです
そんな陽がたまらないのです

『今日と言う日は (03/16)』

そうですよね
今日と言う日は
あなたにとって
大事な日なのですね

私にだって
あるんですよ
かけがいのない日が

心に残っている日が

心の奥の扉の内へ
しまった出来事を
時折だしてね
陽に当てるのです

そうですよね
今日と言う日は
あなたには
大事な日なのですね

『時はいま朝』 (03/17)

昨日までの
苦しみが
ウソのように
時はいま朝
.....

何もかも陽を
浴びて

昨日までが
ウソのように
ときはいま朝

時はいま朝
昨日までの
苦しみが
ウソのように
時はいま朝

『春の陽』 (03/18)

巡り巡った
春の陽が
ようやく
訪れました
寒い大地に

でも……………
貴方はいない
柔らかい
温かい陽を

見ることなく

木々の芽が
だす緑を
聞こえますか
小鳥たちの
さえずりを

巡り巡って
春の陽が
訪れています
貴方のいない
大地に

あああ……………
貴方はいない
見えますか
愛する人よ
春の陽を

『朝』 (03/19)

梅が咲いて
鶯が鳴いて
菜の花が咲いて
蝶が飛んで

貴方のいない
春の陽は
貴方のいた日と
同じです

風が舞って
桜が吹ぶいて
貴方へと
花吹雪が流れ行く
きつと知っているのですね、貴方の居る所を
蝶も花も小鳥も知っているのですね居る所を
貴方の居る所を

『音』 (03/21)

車の走っている
音がします

バイクの走って行く
音がします
部屋でテレビが
鳴っています

何処かで
歩く靴音が
響いてきます
コツコツと
あれは女の人
未明の靴音

朝陽がビルの
窓ガラスに赤く照り
街は眠りから
明け出しました
今日一日の絵画が
描かれる……

『音』 (03/23)

雨に音が
吸われています

いいやいいや
濡れた大地に
沁み込んでいます

しとしと雨の
人間の音を
食べている大地
どんな味が
するのだろう

電車の音を
車の音を
人間の会話を
雨に沁み込み
大地が食べている

『風』 (03/24)

南の風が
吹いています
大空の中を
木々の間を

雲の中を

辛さに耐えた
心に
太陽の輝きと
同じ様に
吹いています

南の風は
いろんな物を
運んできました
窄みを咲かせる
術を忍ばせて

『雲』 (03/25)

大空の中で
白い雲と
黒い雲が
戦っています

地上は風が
吹き荒れて
木立が
揺れています

ビル街に
突風が起こり
地上の塵を
吹き上げています

雲は互いに
ぶつかりあい
空一面
凄じい模様です

垂れ下がった
黒雲は
飛ぶように
走っています

『心』 (03/26)

心の奥底まで
春の陽が差込んで
温かさに
身が暖かくなります

冬の閉じた心が
冷たさから
あああ、今
研ぎほこされて

孤独がほのかに
開放されて
心に自由が
沸上がってきます

春の優しい陽
春の眩しい陽炎
木漏れ陽の
まだらな大地

『曇』 (03/28)

朝に差込んだ陽は
お昼には有りません
灰色の空に囲われて
樹木も電柱も
火の見矢倉も
のんびりとしています

風が微かに
竹藪をざわつかせ
雀がときおり数羽
かたまって飛んで行きます
車の音がして
それから、電車の音がして

月曜日と言う日は
穏やかで眠たいのですかね
おや！ ブルトーザーが動き
道路を激しく掘出しました
社会の活動って
人間が生きる為にあるのか

『暖』 (03/29)

暖かき陽の光り
満ちあふれ
真上の青空

浮かぶ白雲
山峰より高し
陽はさらに天井

音ひとつなき
山間の中に有りて
地上は眠たし

この一時の
平穏安住に
しばし目を閉じる

『お気に入り』 (03/31)

春の陽はお気に入り
陽が野に畑にあり

桜が咲いて
暖かい大地が好き

春の陽はお気に入り
温もりの中に
心が融けて
希望の輝きが光る

そんな春の陽が
お気に入り
今年も寒かった
心に希望の温さが

ああああああああ
だから春の陽が
大好き大好き
暖かき春の陽よ

End all 1994/03